

令和3年度 第2回新宿区子ども・子育て会議 会議要点記録

日時	令和3年11月1日（月）午後2時31分から午後4時33分まで
開催場所	新宿区役所本庁舎6階 第二委員会室
出席者 （名簿順）	高橋貴志委員、小原敏郎委員、宮崎豊委員、岩田優子委員、北爪早映委員、土田秀男委員、三杯直美委員、角由紀実委員、小島喜代美委員、田中敦子委員、小原聖子委員
欠席者	北村祐奈委員、守谷世志夫委員、千葉伸也委員
開催形態	公開（傍聴者なし）
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）新規開設の保育施設について 4 報告 <ol style="list-style-type: none"> （1）待機児童解消に向けた取り組みについて 5 その他 6 閉会

1 開会

2 会長挨拶

3 議題

（1）新規開設の保育施設について

事務局 資料1に基づき説明

委員A 人数設定について、1歳から12名ずつとなっているが、いろいろな市町村の動きを聞くと、3～5歳については、新規に開設をしてもなかなか充足されないようである。区としてはどのように状況を捉えているのか。12人は適切かもしれないが、現状と12人設定という人数の問題についてお聞きしたい。

事務局 確かに高年齢児については、最初のうちはなかなか埋まらないというのが、区で新規開設した保育園ではいずれも同じような状況である。実態としては、3年から5年程度をかけて、定員の80%以上が確保できている。

最初のうちはなかなか入りが難しいが、3～5歳の定員を2歳以下より少なく低く設定するというのは、保護者の方のニーズに応えることが難しいので、3歳以上も2歳と同じ定員設定としている。

委員A 3歳以上が0～2歳より少ないという設定は非常に不自然なので、そこについては特に反対しないが、80%しか埋まらないことについては、認可をしていく以上は、非常に難しい問題だと認識している。資金の投資をするわけだから、投資した結果が80%にしか満たないというのはどうなのかということはシビアに考えておく必要がある。財政もそんなに豊かではなく、緊迫しているところもあると思う。例えば0～2歳の保育から始めて、そこから

どう連携していくかというように方向性を変えるような考えは区として持っていないのか。80%でいいというわけにもいかないような気がするので、その辺のお金の使い方等については、どう考えているのかお聞きしたい。

事務局 園によって少し下回っている状況もあるが、おおむね、開設後5年ぐらい経った園では大体85%以上というのが平均的なところだ。

今のところは、何年か経ったところで一定の定員は確保できている。区でも計画を立てながら保育施設を整備してきたが、その一方で、特に今年については、コロナの影響もあるのか、入園の申込状況も少し下がっている。そんな中で、今後の申込状況等を少し注視しながら、見直す必要があるかどうか考えるべきタイミングが来ているのかなと思っている。

委員A 非常に難しいところかと思うが、85%でいいということではないと思うので、少し丁寧に検討してほしい。

もう一点、これは質問というかお願いだが、この事業者の運営する認可保育園数が全国で136あるというのは、非常に安定している経営なのかなと思う一方、その理念がきちっと各園に届いているのかという懸念がある。理念の統一性、管理体制の責任の所在等をどう確保するのかということの確認もお願いしたい。

事務局 当初の計画承認の事業者決定のヒアリングと、その資料の確認で、開設に当たって保育理念等が継承されているかどうかは、質問等もして確認している。その後の開設後の状況については、保育指導課で適宜、事業者の指導検査や、保護者からの相談を通じて引き続き確認していくといったところで質の確保は担保しているものと考えている。

委員B 保育所の整備理由のところ、「保育提供区域の東南地域に属しており、保育施設設置が待機児童解消に資する役割は大きい」となっているが、この東南地域というのがほかの地域と比べて、待機児童の問題がすごく高まっているのかというのが少し分かりにくかった。この加賀公園のそばには、ほかの保育所もある。認可外ではあるけれども、認可の保育園も経営しているような会社が運営している保育所や、市ヶ谷には事業所内保育所も1園ある。そういったところの兼ね合いがどうなっているのかということと、次の資料2になってしまうが、今回、既存認証保育所の廃園1か所となっているのは高田馬場の園で、そちらでマイナスが出て東南地域で補うというのは、整合性の面でどうなのか。

保育園は、園庭のない園が近くに複数あると、同じ公園を取り合うというか、ほかの園があるのでちょっと遠慮します、みたいなことがあちこちであるようだ。その辺り、立地面と、この人数設定で、どのような整合性なのか。

事務局 確かに、この地域は比較的保育所もできていて、整備も基本的に進んでいる地域だが、一方で申請状況は、人気集中している園も複数ある。そういった中で、この市ヶ谷の周辺地域に園をつくるというのは、現在、人気超過している状況を緩和するという意味では必要なことだと考え、人口の推計なども鑑みて、この地域に公募をかけた。

質問の2点目の、高田馬場の認証保育所の閉園は、周辺に認可園ができて、そちらのほうに園児がだんだん移っていつてしまっている状況と、0歳児がなかなか埋まりづらくなっているという状況で、認証保育所自体の定員も徐々に減らしながら、閉園に向けて数年かけて動いてきた。なので、閉園をしたとしても、今そもそも定員設定自体がかなり絞っているので、高田馬場地域で吸収ができると考えている。

市谷加賀町の園とは、それぞれ別のものとして、今回計画をしている。

委員 B 認可園が最近すごく増えている印象がある一方で、具体名は言えないが、東新宿や新宿何丁目かの辺りで、新しくできた園で定員割れしているところもある。そういった園は、個人的な意見だが、園庭がなくて狭いところに無理やりつくったみたいな印象があるところもあり、地域の需要との整合性が取れてないところもあるのかなと思う。園庭については、幼児期の遊びは大事だと思うので、立地だけでなく、遊びや保育の内容も含めていろいろ検討してほしい。

委員 C ライクアカデミーは認可保育所が136か所あり、私の子どももここに預けていたのだが、定員割れについては3歳から5歳まで全くない状態で、先月転園して近くの保育園にやっと入れた。あと、この会社に看護師がいなかったということが私はすごく疑問があった。うちの子どもがけがをしてしまって、保健師さんの対応はどうだったのかと、揉めるまでは行かないが、今まで子育てしていてここまでのことがなかったのに、ちょっと責めたところがあって、その後看護師をつけたということがあった。

なぜ、この会社でこの場所に建てられることになったのかが一つと、また、ほかの会社が、こういうところで建てたいといった提案があったのかどうか聞きたい。

事務局 この保育施設は賃貸物件を活用した保育所ということで、建物は土地のオーナーが建てたところに、保育事業者としてライクアカデミーが建物を借り受けて保育所を運営するというスタイルの保育所である。したがって、建物の整備については、認可の要件に当てはまるかどうか、例えば保育所からの避難経路が十分確保できているかどうかとか、そういったところは当然チェックの対象に入ってくるが、保育園以外の建物の部分の状況がどうこうというところは、建築の担当の部署でチェックしている。

ライクアカデミーを事業者にした理由としては、地域的に、少し待機児童が出てもおかしくない状況の中で、ライクアカデミーがこの場所で応募してきたからである。変な言い方ではあるが、これがライクアカデミーでなくても、一定の保育の質が確保されている事業者であれば、事業者決定をした。

ほかの事業者が応募してきたのかどうかについては、賃貸物件型という性質上、同じ物件について複数の事業者が応募してくるといったことも実態としてはある。この物件については、ほかの保育事業者からも問合せはあった。そんな中で、令和4年度当初は開設が難しいとか、年度後半じゃないと難しいといったような事業者があった中で、ライクアカデミーが比較的早い段階で認可保育所としての開設が可能だということで、決定をしたという背景がある。

それから、看護師の配置は、0歳児からの定員設定がある園では、基本的には看護師の配置がされているが、1歳からの定員の園だと、必置とはされていないので、もしかしたら委員のお子さんの通われているところは1歳児園だったのではないかと思う。

委員 C あと一つ、仮に0歳から5歳まで人数が埋まったとして、保育士が10名、区基準と書いてあるが、やはり0～2歳くらいだと保育士は2人だとちょっと厳しい。年中、年長になっていけば、2人くらいでよいが。保育士が実際に10名満たされるかどうかというところは、区民委員として、保育所に預けている両親としてちょっと不安なところがある。実際に、保育士がいきなり辞めてしまった、なので今日は一人しかいない、という経験もしたので、基

準が本当に適切か、ちょっと不安があると個人的に思う。

事務局 区基準の定員の設定は国の基準よりも厳しい基準となっている。看護師の設置は、国では0歳園でも必置ではないが、区では求めている。

会長 複数の方から意見が出たが、まとめると、保育の質の維持向上ということについて、より細かくチェックをお願いしたいということに集約されるだろう。遅かれ早かれ、子どもの数はどんどん減っていくので、量的な問題への対応から質的な問題の対応にスイッチせざるを得なくなる。最初の委員Aの質問はその典型だと思うが、保育はばらつきがあるから、基準どおりにやっているから質が良いと言い切れないところがあるので、その辺の細かいチェックをし、その内容をできる限り開示すると区民も安心すると思う。大変だと思うが頑張ってもらいたい。

4 報告

(1) 待機児童解消に向けた取り組みについて

事務局 資料2に基づき説明

委員A 先ほど会長から、これから保育の質へ移行しなければいけないということがあった。保育のニーズが、新設によって大分減ってきて、新規開設する園も減っている。新しく開設した園では、3歳以上の人数を減らさないと定員割れを起こしていくけれど、ある程度の定員を求めていかざるを得ない状況だと思う。ところが、3歳以上の教育、保育を考えていくと、集団で育っていくというのが非常に大きく、9人という人数の集団がどうなのかについて、保育園、幼稚園、子ども園を経験している先生方からの意見を聞きたい。やはり9人とか12人という集団の中で育つというのは非常に難しくなってくると思う。3、4、5歳の異年齢保育をどう展開するか、本当に集団性のある保育を保障しているかということは問うていかなければいけない。淘汰されていく時代に入っていく中で、どう集団性のある保育の質を保障していくのか。少なくなってきたから仕方ない、ではなくて、少なくなってきたときに区としてどのような工夫をするような指導をするのかということをしていかなければいけない。開設から3年、5年経って、3歳児が2人しかいない、4歳児が3人しかいない、というときに、本当に認可保育園としての集団性を基盤にした保育が保障されているのかというところで、どのような支援、指導をしているのか。保育の質の保障と、子どもの発達の保障をしているのかどうかということは問うていかなければいけない。

一つは、区の姿勢として3年から5年待っている間にどういう指導をしているのか、それから、専門的に指導している先生方の中で、3歳以上の保育で、5人とか、9人とかという保育で集団性を保障しているか、幼児教育を保障しているかということについて、どう考えているかご意見を伺いたい。

会長 委員の中でご意見を伺ってから、区の返事をいただく流れのほうがいいのかと思うので、現場で今、保育を実際にやられている委員の方に、一人ずつコメントをお願いしたい。

委員D うちの園は、今、3年目だが、5歳児が2人しかいない。4歳児は8人で、合わせて10人しかいない。保護者の方からは特に集団性ということに関しての不安の声は、今のところはない。ただ、5歳児の2人のお子さんが別々の小学校に行くので、非常に悩んでいる。しかも、本来であればこの時期から、子どもを連れて実際に行く小学校と交流を図ることが

できていたのだが、去年からコロナで全くできていない。問合せをしても、小学校も多分それどころではなくて、小学校は一つだけけれども、そこにやってくる幼稚園、保育園、子ども園、たくさんあるので、個別の対応はできないというのが正直なところのようだ。なので、私たちとしても、中に入れてもらえないなら、せめて外の見学でも一緒に行こうとか、通学路を一緒に通るとか、それしかできない。

集団性に関しては、私の経験からいくと、子どもは大人が心配するよりは適応性はあると思う。今まで私も一クラス12人という定員でもやっていたが、そのお子さんたちもしっかりと小学校生活を楽しんでいると聞いている。もしかしたら保護者の方たちは、どちらかという保育園までは個別対応のほうを評価しているのではないかと思っている。

委員 E 本園は幼稚園と保育園を一緒にした幼保連携型認定こども園だが、現在5歳児が28名と27名の2クラスあり、60名近い子どもがいる。4歳児は、今年はコロナの関係や無償化の関係か、幼稚園機能のお子さんが少なく、21名ずつ2クラスある。

やはり、利用している保護者の方々を見てみると、小学校の就学をすごく意識していて、集団での育ち、それから学びの保障ということはすごく意識して入園してきている。私も、大勢の子どもたちが育ち合うところでは、相談し合うとか意見がぶつかり合っ、気持ちのコントロールをして乗り越えていく、今言われている非認知能力の育ちが、大勢の集団の中ではできていると思う。もちろん大勢いるから育つということではなくて、保育者の質の問題があるので、区のほうでも先日、就学前合同研修会を実施してくれて、そういった研修や研究の機会があることで先生方も育ち合い、それが保育に返っていく。そういう仕組みがしっかりとできていることが大事なかと思っている。

事務局 今、先生方の話にあったとおり、小規模の園では縦割りの保育などを活用しながら、その辺りのリカバリーをしてくれていると思っているが、その一方で、ここ数年間はコロナの関係で、異年齢の保育もなかなか実施が難しい状況にあることは把握している。

定員について、今、委員 E も言っていたとおり、ある程度の人数が確保できる園では、集団生活に慣らすという意味では非常に良い面がある一方で、小規模の園でも、委員 D が言っていたような手厚い保育という面では、それはそれでいいものを持っている。そんな中で保育士の方が、その辺りをカバーしてくれることを期待して、様々な研修等を実施している。そうして多様な保育を提供しながら保護者の方に選んでももらいたいと考えている。

委員 A 先生方のお話を伺っていると、確かに少人数の良さというのはたくさんある。大人数であるがゆえに個々に目がいかないという現実もあるが、本質から言えば、集団保育を通して生かしていく、育てていく、助長していくというのが幼児教育、保育の大前提なので、個を丁寧に見ていますということだけで終わるのは、やはりいけないことだと、個人的には思っている。

そういった意味で、指導する区としては、新宿は人数が少ない中でも集団性をこう確保して、かつ個を大切にしていこう保育していますというようなことが言えるような研修を組んでいかなければ、人数が少ないとやはり不安になるから、保護者としては多いところに行きたがる。人数が少ないけれど集団性をこういうふうに確保していますとか、自園だけではできないのであれば、他の園と共同して保育する機会をつくっていますというような工夫ができる仕組みを、区が先導して幾つかの案を提示していくような姿勢をまたないと、3年待った

けどやはり少なかったと言ったときに、その間にいた人数が少ない子どもたちにはごめんなさいと大人の責任だけで言うていいのか、子どもは子どもなりに順応するけれど大人の責任としてそれでいいのかというのが問われてくる。もうすぐにでも、そのような集団が小さい中でもどうするかという議論を、どこかでし始めないと、これは本当に大きな問題になってくるような気がしている。その辺をお願いしたい。

委員 E 以前に勤務していた幼稚園は、単学級で1クラス30人いたが、園によっては少人数のところもある。そこで、私は近隣にある保育園、子ども園と交流会をして、就学前に出会うという機会をつくるようにしていた。大体10月ごろから定期的に何回か計画を立てて、園外と同じ年齢の子どもたちと出会う機会をつくって、やはりそれが、小学校に行ってから、「小一プロブレム」とよく言われているが、その壁がちょっと低くなるのが取組の効果だと思う。もちろん、今コロナでそういった取組が難しいが、少し落ち着いてきたら可能だろう。

4園で交流していたが、100名近くになってしまうので、分散しながら2園ずつで遊んだりとか、学校に行く就学前の機会も同じ組合せで学校に行けるようにしたりとかということではしていた。やはり、そういった取組はしていけないと、子どもの成長にとって不足の部分、いつもの仲間の関係性が崩れないかなというところは感じていた。

事務局 今、委員 E からご紹介があった、複数の園で交流する保育については、区でも区立園、私立園といった組合せで、地域でほしい4園ぐらいでの交流は、コロナでなかなか実施できていないところではあるが、仕組みは持っている。

委員 F コロナだからできないということだったが、コロナだからこそ各園の判断だけではこういったことができないので、区としても、例えば、今の時期だったら少し収まっているので、この程度はやっていいのではないかと、そういった形で出していけないと、一つの園だけがやりたいと要望しても難しいと思う。

なかなか難しいとは思いますが、ぜひ区で、何とか感染対策をして、この範囲でなら大丈夫というような後押しをしていただきたい。ぜひ、来年春に入学するお子さんたちのことも、早急にやってほしい。さっき、小学校に各園から問い合わせしても個別の対応ができないという話があったが、ぜひ、教育委員会の方もいるので、こういったところで何とか連携して、そういった場をつくっていただきたいと切に思う。

委員 G 学童クラブを運営している会社の立場から申し上げると、地域の中で子どもたちを育てていく、保育園から上がってきたお子さんたちをお預かりするという立場になるので、積極的にこの地域の保育園とかとつながって交流を持つことはやってきている。生活の場面でのお手伝いには至らないが、協力できる場所はあるので、全部が全部を受け止めるわけにはいかないけれども、何かそういったことの活用はできる。

会長 区側にするとどう対応したらいいかというハードルも決して低くはないと思うが、今、話を聞いていると、個別にはかなり努力していい実践をしている部分があると受け取れた。そういう好事例集のようなものがリストとして挙がって、こういうケースにはこういうことをやった保育園があるとか、個別名を出さずとも、モデルみたいなのがあると、どうしていいかわからないというところは動きやすいのではないかと。ちょうど、厚労省が去年かおとし、子ども中心の保育の好事例集みたいなものを出したのと同じように、あれの新宿版みた

いな形で出してくれるといい。

やはり教科書どおりに言えば、集団は絶対的に大事だ。集団の中での子どもの学び合いとか気づき合いとか、その機会をいかに保障するかというのが、幼稚園や保育所のある種の絶対的使命だと思う。サザエさんの時代であれば、もっと気楽に考えていいと思うが、ああいふ世界が今ほとんどなくなってきたから、それを保障してあげる場として、幼稚園、保育所というのが機能しなくてはいけないので、そこでもがいている現場の方々を救うという意味で、さっき好事例集という言い方をしたけれども、そういうのがあるといいのかなと思って聞いていた。

5 その他

委員 F 私は一つ前の期の子ども・子育て会議にも出席していたのだが、そのとき出席していた方を含め、この会議だけでは話し切れないことを、少し自分たちでも議論していく場が必要ではないかということで、何かできることはないかと、知り合いベースで話をしていた。その矢先にコロナウイルスでロックダウンするような状況が起きた。その中で、メンバーの中での困りごととしては、子どもたちがずっと家にいるけれどこのままでいいのかということだった。その前から、子どもたちの遊ぶ場所がないという話はこの会議でもしていて、児童館や公園活用の話も出ていたが、その矢先、コロナでますますいる場所がなくなってしまったところで、子どもたちの意見も聞こうと、アンケートを取るようになった。

夏休み前ぐらいに一斉に、知り合いにLINEで回すというような形なので、どうしても意見の偏りがあるとは思っているのだが、個人的に集めたにしてはたくさん的人数が集まった。それをまとめて、今すぐ要望を出すということではないが、ここから見えてきたものがあるので、これをどうにかしていきたい。

なので、今日、この会議でこれを配ったからと言って、これを基に何か提案があるわけではないが、区でもこういった調査はしているので、それとは別に取ったこのアンケート調査がどれだけのものを表しているかは分からないが、こういったものを基にもう少しこの会議だけではなくて、私たち自身で何か考えて提案することをしていこうとなっている。

最後のページに、ご興味ある方はここにご連絡くださいというQRコードを貼ったので、ご興味がある方は帰り際に私に声をかけてほしい。12月20日ぐらいに、Zoomを利用して、興味がある方々で、このアンケートを基にどういうふうに話していこうかという場を設けるそう。このアンケートに関しては以上だが、この場でも、子どもの遊び場について、小学生、中学生がどうやって過ごしているかということも議論に上げていただきたい。

会長 斜め読みした限りでも、「遊ぶ」という言葉、「友達」というのが真っ先に目に入ると、やはりさっきまで議論していた内容とつながるところもある。皆さん時間のあるときに精読していただいて、ぜひ、ご連絡をしていただきたい。

委員 H 新宿区の小学校においては、放課後子どもひろばが、コロナの影響で入学してからずっとない状況だった。やっとこの緊急事態宣言が明けて、11月から開かれることになったが、ある小学校では学年ごとで、1か月に2～4回ほどで、スタート時間が放課後4時から5時である。

低学年の親の目から見ると、一番ニーズがあるのは、学校が終わってすぐにお友達と安全

な場所で遊んでもらいたいということ。子どもたちも、小学校が終わって、後で会おうねと
いって遊ぶ、という流れがある。苦渋の策で設定しているのは承知しているが、ここが一律
ではなくて、低学年の中でも1年生はもう少し早い時間からとか、高学年になるとニーズが
少ないだろうから、複数の学年でやるのもよいのではないか。放課後子どもひろばや児童館
など、親からすると安全、安心な場所というのが少なくなっているように感じる中で、こ
うした子どもの居場所については、区で進めていただくと大変ありがたい。

特に、公園でも遊んでいるとうるさいと言われるような状況なので、こうした誰もが必ず
遊ぶ、つながりを持てる権利がある場所というのを、コロナにおいて非常に難しいとは思
うが、積極的に何らかの形でつくっていかなければ、先ほど集団の話もあったが、やはり子
どもというのは集団の中で育つ、遊びを通して育つということが非常に大きいと思うので、
学校や、施設が終わった後の子どもの居場所というのは大変重要ではないか。

事務局 遊びの中での学びや経験を通じての気づきは、当然、乳幼児だけじゃなくて学齢児に
とっても必要だ。それを実現する場としての児童館、あるいは放課後子どもひろば事業とい
うのは、とても大切に思っている。一方で、このコロナの中での感染リスクは、やはり看過
できないものがあって、そのバランスについては大変悩んでいる。社会情勢としては、ワ
クチンの接種はかなり広がってきていて、イベントの再開なども定員の制限を緩和してい
る中、11歳以下のワクチン接種はまだである。そんな中、児童館、あるいは放課後子どもひろ
ばというスペースの中で、密を避けて活動する必要は今もなおあると思っている。

そうした中で、11月から児童館とか放課後子どもひろばを、本当に小さい部分でも、少し
でも利用制限みたいなものを緩和できることは何かと考え、今日からスタートしている。

放課後子どもひろばでいえば、これは学校の協力でスペースを借りながらやっているもの
で、この場合、1年生から6年生までの授業が終わるタイミングがどこなのかということ
を考えざるを得ない。それ以外の時間帯で、この時間使っているよと学校からひろばの専用室
として借りている場所もあるが、それ以外のスペースも使ったの展開というのは、6年生
まで含めた授業が終わる時間帯というのを見定めなければならない。それが、委員の話にあ
った4時スタートというところと関連している。

新宿区においては、放課後子どもひろばの中で学童クラブ機能つきという言い方で「ひろ
ばプラス」という事業も同時に展開している。そうすると、「ひろばプラス」の事業をや
っていく中である程度のスペースが必要になってくるということもあり、放課後子どもひろ
ばそのものの事業については、まずは学年別の利用から再開し、その利用状況やコロナそ
のものの状態、世情なども見定めて、できるところから少しずつ広げていこうという考えで、
今日からスタートしたところである。

委員 F 何か緩和していく際に、一律にやっというよりは、ある程度優先順位が必要
ではないかと思う。小学校に入る前の年長さんや、小学校に入ってすぐの1年生、それから
中学校に入る前の6年生とか、そういったところを優先順位としては早く、緩和というか行
事関係、交流とか、修学旅行とかを優先させてあげるというのは、保護者にも理解が得ら
れるのではないか。そういう中では、新宿区はほかの自治体と比べて、よく言えばすごく慎重
だし、悪い言い方をすると、ちょっと遅い面もあると思う。

これは批判するという意味ではなくて、意味があって、新宿区のペースでやっているとは

思うが、大人のことがどんどん緩和されているのに、子どものことがすごく遅いという実感は保護者としてある。区として責任が持てるバランスを見ているとは思いますが、その中でもさらに優先順位をつけるなら、そういったところの過渡期というか、就学前のところとかを優先的に緩和していくのは理解が得られるだろう。

事務局 今のご指摘について、児童館の話と放課後子どもひろばの話を分けて話す必要がある。

児童館に関しては、実は10月1日からの制限の一部緩和の前から、乳幼児の親子向けの事業は、感染対策に十分注意しながら継続してきた。特に、児童館もしくは子ども家庭支援センターで行われている保護者向けの講座は、託児もつけるようなものもあるが、優先して再開していたし、そこは必要だと思ってこれまでもやってきた。また、児童館そのものの利用の時間に関しても、未就学の方は午前中に、しかも館ごとのスペースの大きさがあるので、枠としては2人、3人のようなところも正直あるのは否めないが、利用していただくような形で、これまでも児童館の運営はしてきた。今回の緩和に伴ってそういった時間帯の枠ができるような児童館、スペースの関係でなかなか難しい児童館というのは正直あるのだが、できる館においてはできることを少しずつでも広げていくという取組は心構えとしては持っているし、今後もやっていきたい。

次に、放課後子どもひろばに関しては、非常にテクニカルな話があって、先ほどお話があったように、放課後子どもひろばの一般利用に関しては、実は今の1年生と2年生は事実上経験がない。なので、中学年から再開にした。お兄ちゃん、お姉ちゃんたちがやっているのを見ているうちに、1年生、2年生も最初は恐る恐るかもしれないが、放課後子どもひろばに来てくれることは、我々も期待している。また、どの年齢層が比較的ニーズが高いのかというのは手探りのところがあるので、実態を捉えていきながら、世間の感染状況が許せばという条件はつくけれども、緩和の度合いというのは進めていきたい。

委員 F 学校の状況はどうか。コロナになってから不登校になってしまう子が多くて、特に新しく中学とかに上がってそのまま登校ができない子がすごく多いと私の周りでは聞くのだが、何かそういったところでやっていることがあったら聞きたい。

事務局 不登校の児童・生徒は、昨年度の数字で言うと、小学校は例年と比較すると増加し、中学校は横ばいの状況である。ただ、不登校の原因は、例えばコロナということもあるかもしれないし、家庭の状況ということもあるかもしれないし、そこは一律に言えないところである。不登校に関しては、1個の要因だけではなくて複数の要因が絡むことが多いので、学校は状況に合わせて対応している状況である。

それから、「学校に登校する」という結果のみを目的とせず、社会とのつながりが絶たれないように外のフリースクール等との連携も含めて働きかけをしている。ただ、状況がそれぞれ異なりなかなかお会いできないご家庭などもあり、対応に苦慮するケースもある。

それから、コロナの関係については、私どもとしてはとにかく感染が広がってしまうのが一番怖い。感染が広がった時点で全部ストップになるので、それを何とか避けたいと今まで2年間やってきた。緊急事態宣言が解除された状況では、感染拡大につながらないように配慮しながら、教育活動を進める必要があると考える。

委員 C うちも小学校2年生と保育園児3人いるが、小学校に入る前に、友達ができるかできないかということはずごく気になる。これは子どもだけではない。

結局、保育園や幼稚園のときに親とのつながりを持っている時間が一番長くて、大事になってくると、経験から感じている。というのは、親とのつながりがある中で一緒に友達ができるということもあって、小学校はどこに行くとか、そういうところで交流を深めるのが、保育園とか幼稚園の時期だと思う。私の知り合いでも、小学校に行ったら、友達が誰もいないということで、親どうしのつながりが全然ない。PTAなどに参加していれば少しはつながりができるが、積極的でないご両親は全然話もしたこともないし、顔も見たこともないということで、大人の居場所も新宿区はちょっと少ないと思う。積極的な人であれば子ども総合センターなどに足を運ぶけれど、実際、そんなに積極的な人はあまりいない。

うちは幸い、公園も近いので、公園で毎週遊んでいるが、友達が周りにいなくてうつ状態の方を見かけることもある。子どもの居場所を探すとはいうけれど、両親の居場所も探していかないと難しいと思う。

この子どもの居場所に関するアンケートで思ったのだが、私もパパ友がいなくはないが多くもない。積極的な人はすごく交流を持つけれど、全く交流を持たないで子育てをしていて、そのまま小学校に行って、友達が全然できないというような事例もあって、そこは残念だと思う。実際に子育てをしているのはお母さんが多くて、積極的に家庭に入っていくお父さん方は、周りを見るとまだまだ少ないと思う。

保育園の送迎はお父さんがすごく増えたと思うが、昔はお母さんがほとんどで、仕事の関係もあるだろうが、公園とかに行くとはほとんどお母さんしかいないとか、そこは残念かなと思う。何でこうなっているのかと考えると、やはりお父さん方のつながりが無い。お母さん方は、すごくおしゃべりもするし、それが上手で、そこでつながりができたりする。お父さん方は全然ない。じゃあ、どういうところでつながりを持つかといったら、イベントがあったときにやっとながらを持ってたのかなので、結構大人の居場所と子どもの居場所がイコールなのではないかと、個人的に昔から思っている。なので、区に関してはそういった場所が、コロナの状況でつくるのが難しいとは思いますが、ふだんの日常生活の場所で何かあればいいかなと個人的には思っている。

委員B 私も子どもが保育園に通っているが、保育園内の行事もコロナでなくなっていて、親同士が知り合う機会がほとんどなくなっている中で、もしママ友とかをつくりたいければ、地域の行事とかに頼らざるを得ない。私は割とフットワークが軽いので、子ども総合センターでのNP（ノーバディズ・パーフェクト）プログラムや、薬王寺でやっているイクメン講座とかに家族で参加して、いろいろな方と親睦を持っている。一方でコロナということで、特に出産をしたばかりの人たちで一人目のお子さんという方だと、親どうしの交流を持つ機会がなくなっているというのは、すごく切実な声として聞く。

そういう中で、子ども総合センターや児童館など、施設に行けばいろいろなイベント等の情報は教えてもらったりするし、あとは、メーリングリストや、ママ友のロコミとか、そういった個人的な二次情報を使ってそういった情報にアクセスしているわけだが、やはり区からのそういった居場所や子どもに関する情報が、少し限られているという印象はある。

前回の子ども・子育て会議の少し前ごろ、うちのインターホンが押されたのだが、警戒して出なかった。2回ぐらいそういうことがあって、後日、民生委員、児童委員の方の置き手紙みたいなのが置いてあった。そういう訪問があるというのはその後の区報で知った。分か

っていたらちゃんと話す機会だったし、すごく貴重な機会だったと思うのに、そういう情報が遅くて、少し残念な部分があった。

待機児解消のところに戻るが、うちは認可保育園をいろいろ申し込んだが、結局ご縁がなかった。そのときに区から、定期利用保育と、居宅訪問型の、うちに訪問してもらって次の認可保育園が決まるまでの子どもを見てもらう制度のことは紹介してもらった。ただ、自分はその後、区外の友人等にも聞いて調べたところ、認証保育所というのもあって、助成金もあると聞いた。私は今、認証保育所にご縁があって行っているが、たまたま個人的な知り合いから聞かなければ入ることはなかったし、認証保育所、それから、子ども園の幼稚園機能などもあって、新宿区では少ないが2歳児保育をやっている園もある。子ども園は、保育園機能と幼稚園機能の両方の機能を持っていて、それは利用したことのない人から見たらどんなところか全然想像がつかない。実際、長年、自分は保育園に行っていたというママ友は、子ども園に決まったときに、子ども園というのがよく分からないから正直あまり乗り気じゃなかったみたいな話もあった。私自身もあまりイメージがなかったが、実際、子ども園の説明会に行ってみるといいとこ取りだと感じた。例えば幼稚園機能で預けるなら、預かり時間が幼稚園よりも長いということや、幼稚園だと外部の業者に給食を発注するところが、子ども園だと、保育園機能もあるので厨房がある。それは働くお母さんにとってもメリットのあることだと思うし、逆に保育園機能の2号認定で入園する方は、保育園でありながら幼稚園的な教育を午前中に受けられる。その2つを考えてすごくいい施設だなと思った。だから、そういったプレも含めて幼稚園、子ども園、認証保育所、あるいは認可外も有名などころもあるし、そういった選択肢というのを、認可保育園にご縁がなかった人に流してもらうというのはすごく大事ではないか。

区としてももちろん認可保育園への思い入れというのはあるかと思うが、結果として、例えば私は認証保育所に決まった段階で区の待機児童からは外れている。そういう意味では結果的に認証保育所に入れたことによって待機児童が一人解消されているので、そこは認可、認証とか、認可外だと幼稚園でもプレをやっているところもあるので、そういった選択肢をいろいろと提示することで、もう少し本来の意味での待機児童解消ということにつながるのではないか。

委員 I 民生委員では、赤ちゃんが生まれて1歳になる前に全員の方のところ「すくすく新宿っ子」というのを配っている。それは赤ちゃんが生まれたので、ママさんがおうちの中で困っていないかという気持ちからで、独自の事業だ。去年はコロナで訪問できなかったのが、今年度は2年分配って歩いた。今までは必ず面談かインターホン越しでも会っていたのだが、とにかく分量が多いので、一旦ピンポンを押して、いなければポストインぐらいじゃないとさばき切れないというのがあった。それで伺ったのだと思うので、今、すごくいい意見をもらった。

「ことぶき祝金」というのを新宿区から配っていて、そのときには区報で、何歳何月から何月生まれの方には配りますというのを事前に出すが、「すくすく新宿っ子」に関してはない。やはりピンポンすると、びっくりして「何ですか。ポストに入れといてください」と、そういうご意見もあるので、それは持ち帰って考えたい。

それから、保育園のことについて、私も、今までは待機児童がいたのがゼロになったので

よかったと思っていたら、今日の話では人数割れしているというので、どんどん建物をつくってお金がかかった、でも子どもがいないなんてことになったら税金の無駄遣いになる。

また、私たちは、絵本を保育園に配っていて、私も何園かの保育園に行ったときには、子どももたくさんいて、園長先生も喜んで絵本を受け取ってくれていた。でも、人数が5人、10人というところと、人数の多いところに同じ金額を配るとするのは全然違ってくる。それも持ち帰って検討する材料だと思った。

そもそも、認可保育園には配っているが、認可外には配っていなかった。なぜ、認可外はなしなのかということで、少し勉強させてもらったところ、そもそも認可外になるのは、自分のほうから認可してもらわなくても自分たち独自の教育法でやるから認可は要らないという園もあると聞いた。そういう認可外の園の定員がすごく多かったなら、認可保育園はどうして少ないのっていう話になる。認可を取ってよかったじゃなくて、認可外も努力しているという意識は私の中ではあった。

会長 まず、最初の大人の居場所、親の居場所をどうしようというところで何かアイデアが区のほうでもし何かあれば。特に就学後のことで。

委員 C 小学校1年生になると、ご両親もつながりを持ってない方は、勝手に学校へ行かせてとなってしまう、それで、友達をつくってきなさいと言っても、友達がそんなに簡単にできるわけではない。親どうしのつながりがあれば、そのまま友達みたいになるので、本当にそのつながりがないというのは感じる。幸い、一番上の子が小学校2年だが、保育園のときに、親のつながりもあって、そのまま友達としてつながっている。周りの子育てをしている人は、保育園、幼稚園のときのパパ友、ママ友つながりが続き、キャンプに行ったりとか、一緒に遊びに行ったりだとかしているという意見もあったので、そこは欲しいなというところだ。

事務局 教育支援課では、家庭教育の支援やPTA活動の支援をしているので、地域のつながりという点から説明させていただきたい。

区立については全ての幼稚園、小学校、中学校にPTAがあり、お父さんの割合も多分半々ぐらいで、幼稚園は全て女性だが、小学校、中学校だと半分ぐらいはお父さんが会長をしている。

PTAは当然、希望制で任意である。PTAに対する様々なご意見もあり、なるべく保護者の負担を軽くしようとするPTAも取り組んでいる。目的としては子どもたちの健全な育成と保護者同士の学び合いということになるので、できればこういったところにご参加いただけると、PTAを切り口にして地域のイベントに関わる機会もあるので、ぜひご参加いただけるとありがたい。

また、教育委員会では、保護者を対象に様々な勉強会も行っている。今年度はオンラインが多いが、あえて12月に対面での勉強会、研修会もやろうと企画したところ、例年になく反響で応募を多数いただいている。コロナの状況の中でも、やはり直接的な触れ合いを多くの方が求めているというのを改めて認識した。今後も様々な企画を広く周知して、何か興味があるものにより多くの方が参加して、そこから地域とのつながりや、友達づくりが進んでいければと思っている。

事務局 親同士のつながりが子どもの友達づくりにつながっていくという視点は、そういうところもあるのかと話を聞いていた。例えば区立園でいうと、園長をはじめとする職員の考え

方とか、その時々のご意見の皆様のご意見を踏まえて、運動会で保護者の出し物をかなり大がかりなものにするとか、積極的に取り組んでいる園もある一方で、月に何回か集まる会を持っているような園もある。どれがいいとか悪いとかいうことではないと思うが、委員からいただいた視点でそういうつながりを持っていくことも大事だということは園長会等を通じて呼びかけていきたい。

委員 H 先ほどの子どもと親とのつながりが非常に大事、そして、つながる機会がないという意見に賛成で、私も子育てをしている中で最初はすごく苦労した。つまり、保育園、幼稚園、小学校が始まれば一応、顔を合わせる機会もあり、その中で少し勇気を持ってPTAをやったりとか係をやったりすれば、そこからつながりは生まれるが、保育園などに入る前というのが一番苦労したという記憶がとても強い。

私、第一子の場合は、新宿区は待機児童になってほかの区に行ってしまったので、休みの日に自分の家の近くの公園に行くと、いっぱい子どもがいて親御さんもいっぱいいるけれど、それぞれグループがあって、楽しいですねと話しかける人もいないという状況がすごく大変だった記憶がある。

他区の例にはなるが、例えば、同じ月に生まれた子どもの親の会というものがあると聞いて、そういうのがあれば何かきっかけになるのではないかと思った。

乳幼児健診のときに、同じぐらいの月齢で健診をやっていると思うが、その中でも近めのところにお住まいの方の時間帯を区切って、そこで一つだけ何かワンセッションとか、何か話し合う機会を5分でも10分でもつくれば、親御さん同士のつながりが生まれるのではないかな。今はコロナで難しいところもあり、個人でやり取りをして個人で会う分には個人の責任でというふうになっていくかと思うが、最初のきっかけというのが何かつくればいいと思う。

区でイベントなどいろいろな取組をしていて、すごくありがたいと思って参加もしていたが、一方で、自分の住んでいるところから遠くて、例えば子ども総合センターでたくさん魅力的なイベントがあります、コズミックセンターでたくさんあります、でも、そこに行くには、小さい子どもを連れてバスに乗って電車に乗っていくと、もういいかなと思ってしまったのも事実だ。民間に委託をして小さな公園で、少人数でやることを広くたくさんやって、そこで何か出会う機会があるといいのにと思ったりもした。

事務局 まず、各委員からいろいろご意見をいただき、区としての取組というところで、改めてこの場をお借りしながら、現状認識だとか今後の展望などを含めて、いろいろ考えていますよ、実はやっていたよという話をした。それからすると、やってはいるけれども、情報発信の仕方がいま一つなのかなと、今回のこの会議に出席して思った。

いろんな取組をするにあたって、実際に情報発信をしている。例えばホームページには区のいろんな事業・取組が集約されている。そこで例えば子ども家庭課の取組をなるべく事細かに漏らさずに、ということの一つの課がやり出してしまうと、全庁的に見ると膨大な情報量になってしまう。それゆえ、自分の欲しい情報に行きつくまで非常に疲れてしまって、道に迷ってしまい、情報はあっても結局たどり着かないというジレンマが起こる。逆にシンプルにすればするほど、情報量が足りないということにもつながりかねないので、そこに關しては一方的につくるだけではなくて、こういった会議体などでご意見をいただきながら、

どの情報を手厚くしたほうがいいのか、逆にどの情報をスリムにしたほうがいいのかというのは、それぞれ所管のところできちんと意見として受け止めて、今後に生かしていく、というやり方しかないと思っている。

それから、大人の居場所のところでも、子育てはどうしても女性に比重が偏りがちであるが、男女平等という視点で、男性も育児や介護にもどんどん積極的に参加していきましょうというような、もっと手前のところでの取組もしている。それから、次世代育成協議会という会議体で、ある委員からご意見をいただいたのが、確かに行政でいろいろ支援のメニューを整えてもらうのは非常にありがたいけれど、逆に支援を受けることに慣れてしまい過ぎると、大人も子どもも、それこそ自分で何かをする力を削いでしまうリスクもあると。やはり行政側だけで考えるのではなく、こういった会議の意見というのは非常に重要だと考えているということも併せて伝えたい。

委員 J 子どもの居場所のアンケートは、本当に素晴らしい取組だと思う。小学生の自由回答で、「本当はできれば誰といたいか、こんなことをしたいとか、今よりこうなればいいと思うことがあれば書いてください」という設問は、やはり友達といたいというのが本当に多くて、これは、コロナの影響も大きいと思った。今日の議論で考えると、友達とどう出会うかというところで、場だけを提供するというのではなく、その場をどう質的に向上させていくのかは、やはり「人」だと思う。児童館の面積を広くした、とかいうところだけではなく、児童館にファシリテートできるような大人、専門家を配置するとか、そういうところで大人同士の関わりもファシリテートしていける機会になるのではないかと考えると、やはり、適切な専門家といわれるような人を配置していくような時代に今後さらになっていくと、それはコロナで顕在化していると思った。

あと情報発信というところで、2015年に子ども・子育て支援制度が発足して幼保連携型認定こども園が強化されたが、幼保連携型認定こども園はあまり知られてないというのが、自分は養成校で教えていて、今、愕然としている。そういうところは情報発信をうまくしないとだめだなと、学生にも、養成校にいる人間として、社会に発信していくことが大切だと思う。

ホームページの話では、テキストで書けば量が多くなると思うが、例えば、自分は千代田区の学校にいたのだが、千代田区では認可と認証の違いを2分ぐらいの動画で非常に分かりやすくつくっている。幼保連携型認定こども園の説明など、分かりやすい説明、情報発信ができればいいなと思った。

あとは、待機児解消に向けては、認可にこだわらず、例えば地域型保育、小規模保育所を入れるとか、区立の幼稚園を認定こども園にとか、弾力的な施策があるといい。

委員 F ある助産師さんからの意見だが、産後の支援の選択肢が、新宿区はほかの区に比べると少ないということだった。

私は新宿でしか子育てをしてないので、ここ数年で産後の支援は増えたという印象があったのだが、それでも他区に比べると、助産師さんから見ると少ないそうだ。

比較まではできていないが、そういう意見もあるということで、出会うより前に、まず産後のメンタルが落ち込んでいると、友達をつくろうという気持ちにもなれないので、そのところの支援も、コロナのこういう時期だからこそ大事なので、早急に増やしていただけれ

ばありがたい。

事務局 今のお話は、助産師さんからのご意見ということなので、どちらかというと保健分野の話かと思う。

子育て支援と母子保健は、特に0歳の部分においては相互にオーバーラップする部分がある。区においては、母子保健の部分は健康部というセクションがやっていて、子育ては学校教育の部分以外の大きいところは子ども家庭部でやっているが、相互に情報連携しているし、今年度からは特に関わりを強くしている。その中で特に産後の支援というと、産後ドゥーラという、そういった教育を受けた方がご家庭に入って、一緒に家事などもやりながら、子育ての悩みを聞くというようなことを今年度から強化している。

また、子育ての経験のある方がそれぞれのご家庭に訪問して、どちらかとこれは傾聴するという部分が多くなるかもしれないが、話を聞くということだけでも、そこは十分な癒やしになる。保健のセクションでも、いろいろ強化していると聞いている。今日いただいたご意見は、健康部の担当部署に伝えておく。

委員 A コロナの影響は子どもたちに非常に強く出ていて、たまたまこの間、私も教えてもらったのだが、国立成育医療研究センターというところがコロナに関するいろいろな子どもたちへの聞き取り調査をしていて、その様々な声がホームページ上に載せられている。コロナが終息した後に、私たちが子どもたちの味方になっていかなければいけないので、子どもたちがどんなことを感じていて、心と体にどんな影響を与えていくのかを知っていかなければならないと思ったので、みんなで勉強できるといいかなと思って紹介する。

6 閉会